

事業名

健康福祉と防災のまちづくり推進事業 —あたらしい中立方式をめざして—

実施団体

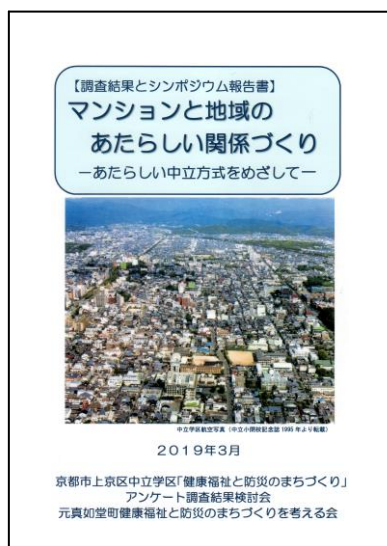
元真如堂町健康福祉と防災の まちづくりを考える会

昨年のアンケート調査結果からまちづくりの16の課題を整理しました。その中から…

☆今年度は「マンションと地域のあたらしい関係づくり」の調査とシンポジウムを行いました！

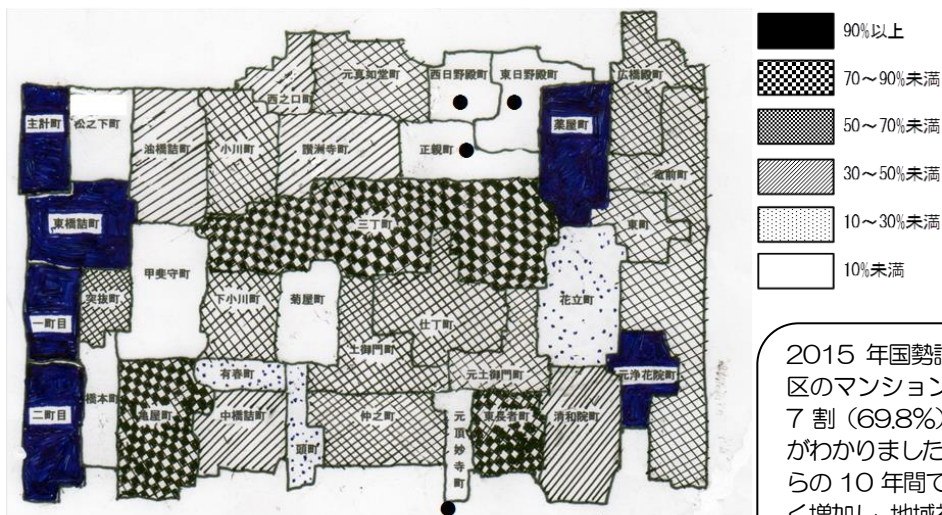


【2018年3月】



【2019年3月】

【中立法区・町内別】



2015年国勢調査で、中立法区のマンション居住世帯が約7割(69.8%)になったことがわかりました。2005年からの10年間で1.4倍に大きく増加し、地域社会が大きく変化しました。

注) 西日野殿町、元頂妙寺町：秘匿地域
東日野殿町、正親町：データなし

中立法区のマンションの現状 (全体のまとめ)

中立法区の共同住宅の分譲・賃貸別の数及び戸数	全 体			東部ブロック			中部ブロック			西部ブロック		
	分譲	賃貸	戸数	分譲	賃貸	戸数	分譲	賃貸	戸数	分譲	賃貸	戸数
今回の調査結果	19	34	1,270	11	9	428	3	11	215(+1)	5	14	627
国勢調査(2015年)	1,459世帯(69.8%)			今回の地域調査で捕捉できたのはあくまで戸数であり、空き家を含む。実世帯数との差はまだ開いており、今後も調査を続けて精度を高めていく必要がある。								
〃中立法区全世帯数	2,090世帯(100.0%)											

【先進的と評価された中立方式とは】

昭和47年にまとめられた方式で、二つの原則にまとめられます。
第一に、マンション等の中高層の建築に対して、住民が個々ばらばらに施工主と話し合わないこと。
第二に、住民福祉協議会が交渉の窓口としての役割を担うこと。
こうすれば、住協が他の経験や学区の環境を守る視点からアドバイスでき、工事方法や建物の形等について住民の立場で協議できます。

所属する自治組織の活動 * マンションも地域も自治活動の活性化が共通の課題です

項目	中立学区全体	共同住宅計	ひとり暮らし世帯（共同住宅）			
			小計	64歳以下	64～74歳	75歳以上
一日中だれとも話をしないことがある	9.9	14.1	34.3	29.2	25.0	46.2
一日中どこにもでかけないことがある	23.9	29.6	35.7	16.7	35.0	53.8
孤立感やさびしさを感じることもある	9.6	11.7	18.3	20.8	5.0	25.9
何もやる気がおきないことがある	19.2	21.2	22.9	21.7	15.0	29.6

共同住宅のひとり暮らし世帯の孤立化の状況（不明を除く） * ひとり暮らし高齢者対策も共通の課題です

NO.	カテゴリ	共同住宅		全体	
		件数	%	件数	%
1	昔から活発に活動している	39	17.4	167	26.8
2	昔は活発だったが、現在は活発とはいえない	26	11.6	134	21.5
3	ほとんど活動していない	42	18.8	78	12.5
4	なんともいえない	111	49.6	224	35.9
	不明	48	21.4	24	3.8
	サンプル数・%	224	100.0	624	100.0

「和い輪いカフェ」について * 身近な場所で多くの居場所づくりを進めることが大切な課題です

項目	中立学区全体	共同住宅計	ひとり暮らし世帯（共同住宅）			
			小計	64歳以下	64～74歳	75歳以上
知っていた	47.7	37.5	38.2	13.0	47.4	40.7
知らなかった	52.3	59.8	61.8	87.0	52.6	59.3
参加したことがある	9.1	6.7	11.8	4.3	22.2	11.1
参加したことがない	84.6	89.3	88.2	95.7	77.8	88.9
参加したい	14.3	12.9	15.8	17.5	18.9	25.4
参加したくない	20.7	25.9	22.1	30.0	27.0	13.6
なんともいえない	57.4	55.4	56.6	52.5	54.1	61.0

マンションの75歳以上ひとり暮らし世帯の4人に1人が「和い輪いカフェ」への参加を希望しています！

【調査結果報告会とシンポジウムのご案内】

マンションと地域の新しい関係づくり —新しい中立方式をめざして—

◆日時：2月24日（日）午後1時45分～4時

◆場所：上京区役所 4F 会議室 * 参加費不要

【調査報告】 マンション居住者の暮らしの現状とこれからのまちづくり

報告者 美留町 利朗（元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会代表）

【シンポジウム】

○7割の世帯がマンションに住むまちの“見える化作業”でわかったこと 佐々木 道雄（中立自主防災会会長）
○マンション自治会で取り組んだ“地藏盆”とこれからの地域との交流について 井澤 信之（壺町スカイハイイツ自治会長）

○中立学区の自治問題の現状と今後の課題 藤原 信生（中立学区住民福祉協議会副会長）

○コーポラティブハウスの現状と可能性 川本 真澄（コーポラティブハウス さくらコート住人）

○ひとり暮らし高齢者実態調査からみえてきたこと 長谷 かおり（小川地域包括支援センター長）

○まとめ 上林 研二（中立学区住民福祉協議会会長）

【共催】中立学区住民福祉協議会、中立学区自主防災会、元真如堂町内会、元真如堂町健康福祉と防災のまちづくりを考える会、小川地域包括支援センター

◆この企画は、京都市上京区地域力推進室のまちづくり活動支援事業及び京都府地域力再生プロジェクト支援事業として実施するものです。



【今年度の調査でわかったこと】

① マンションは地域の「社会的に有用な資源」

災害時の避難場所、避難器具の保管場所、井戸水や屋上庭園の活用等、社会的に有用な資源とみる必要がある。

② マンションと地域には共通の課題がある

自治活動の活性化やひとり暮らし高齢者の孤立化対策などの共通の課題がある。共に協力し合う基盤がある。

③ まちづくりの別れ道にあるのではないか

このまま個別化・孤立化が進み、ばらばらになっていくか、学び合い・助け合う健康福祉のまちづくり、の二つの道の分かれ道にあるのではないか。

④ 京都らしさを残す「長屋住宅」への対応が必要

あたらしいマンションと地域の関係づくりの課題と並んで、「長屋住宅」をどのように残していくか、も検討していく必要がある。

*** 次年度は、学び合い・助け合う健康福祉のまちづくりの具体化を進め、「あたらしい中立方式」の確立をめざします！**